

編集後記

今年度は学校の休校から始まりました。振り返ると、これまでとは全く違う1年となりました。新型コロナウイルスの感染防止のための対策は、通級指導教室でも行われ、これまでできていた指導ができなくなったり、指導形態や教材を工夫せざるを得なかったりと、試行錯誤を繰り返した1年間となったように感じています。

静岡県言語・聴覚・発達障害教育研究会では、これまで、毎年3回の定例研修会をはじめとして、様々な研修会を企画、運営してきました。しかし今年度は定例研修会も、地区での研修会も、大勢を集めて開催することはできない状況となりました。そこで、定例研修会については紙上発表、地区での研修会はオンラインでの研修会とするなど、前例のない形での開催となりました。東海四県言語・聴覚・発達障害教育研究会も紙上発表という形で開催されました。

歯がゆい毎日の中で、それでも研修の機会をなるべく多くしたいという会員の思いが、このような形となったと思います。

来年度は、オリンピック、パラリンピックの開催が予定されていますが、解決しなければならない問題が多く残されています。私たち通級指導教室担当も、様々なことを乗り切りながら専門性を高め、よりよい指導ができるよう研修を続けていきたいと思っています。

最後になりますが、講師の皆様、研修成果を紙上で伝えてくださった先生方、研修会の運営を行ってくださった先生方、協力してくださった方々、会員の皆様に感謝いたします。

今後も子供たちのために、静岡県言語・聴覚・発達障害教育研究会の歩みを止めずに、前へと進んでいけますようご協力ください。

研究部 杉本真理子、井口亜由美、名倉 文康、南谷 由香

